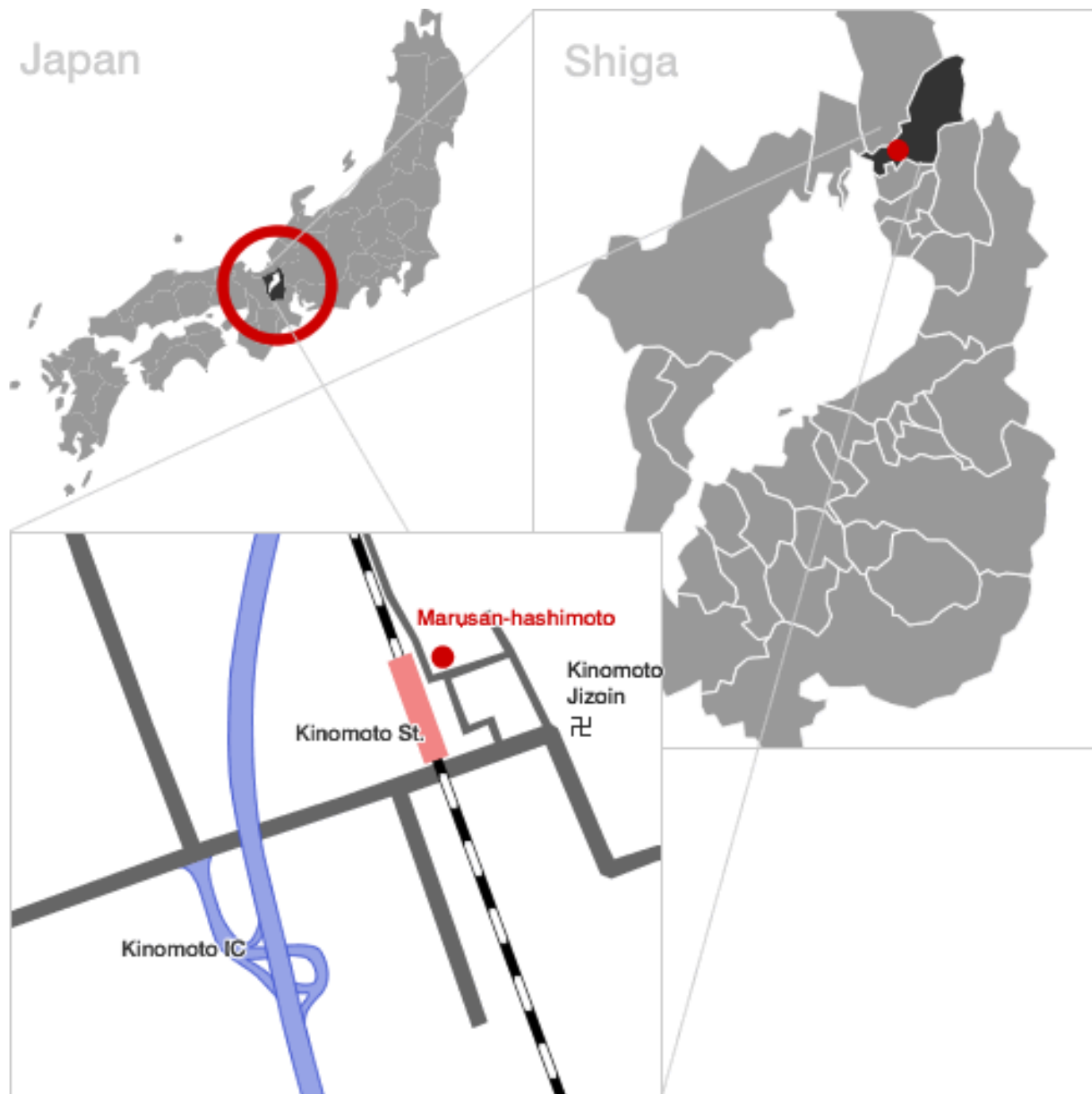


文化審議会 文化財分科会企画調査会

邦楽器系製作の現在と 社会理解への対応

丸三ハシモト株式会社
代表取締役 橋本英宗

滋賀県長浜市木之本町位置



会社概要



◆ 設立 明治41年（1908年）

◆ 箏・三味線・琵琶・胡弓・沖縄三線などの
邦楽器系を作る会社

現在役員・従業員・パート合わせて15名

◆ 二代目橋本太雄は昭和54年に、三代目橋本圭祐は平成
30年に国の「選定保存技術「邦楽器系製作」保持者」
の認定を受ける

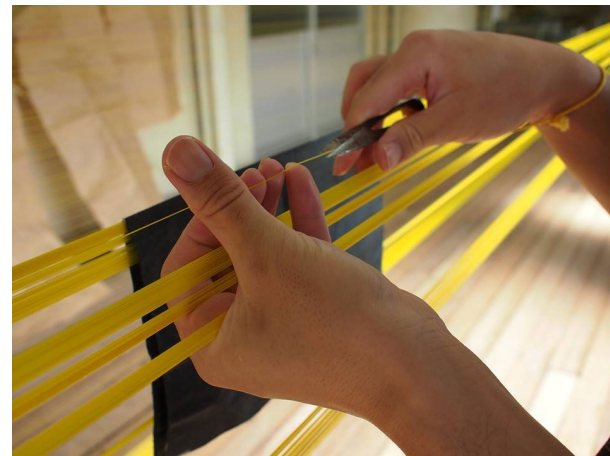
◆ 平成25年
第1回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール
大日本蚕糸会 会頭賞を受賞

◆ 平成25年度伝統的工芸品産業振興協会主催
「伝統的工芸品産業大賞」準グランプリを受賞

邦楽器糸製作について



- ◆ 和楽器絃メーカーは全国で4社。
絹絃を製造するのはわずか3社（滋賀県2、京都1）
- ◆ 製造する商品数は業界トップの400種類以上。
三味線、箏、琵琶、胡弓、沖縄三線、中国及び韓国伝統楽器等
- ◆ 原料は絹糸、ナイロン、ポリエステル
- ◆ 絹糸から作る絃はおよそ12の製造工程があり、
そのほとんどが手作業で太さや撚りによって多品種を生産する
- ◆ 世界的にみても絹絃メーカーは希少な存在である。
日本は絹絃の代表的存在として知られている。





丸三ハシモト株式会社
Marusan Hashimoto Co.

歴代経営者

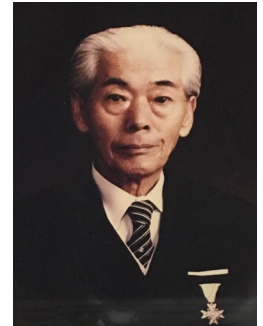
初代 橋本参之祐

幼少期に両親と死別し、
丁稚奉公で楽器系を学びに行く。
1908年創業し、中部地方、関
西地方へ大きく販路拡大



二代目 橋本太雄

戦後 化学繊維を活用し
耐久性のある弦の開発に尽力
業界を牽引した
☆S.54年選定保存技術保持者認定



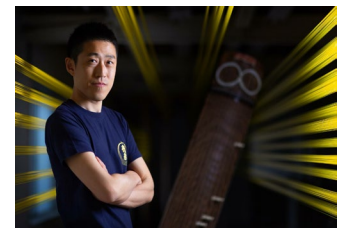
三代目 橋本圭祐

沖縄三線の弦開発、
放射線照射弦の開発
さらに丸三の糸の品質を高め
ブランド力向上に尽力
☆H.30年選定保存技術保持者認定



四代目 橋本英宗

海外、特にアジアの伝統楽器市場
に参入し世界的な絹弦メーカーと
して海外に認知度を高める



平成30年度 邦楽器系製作として 選定保存技術保持者に認定されました

平成30年度
重要無形文化財保持者
選定保存技術保持者・保存団体 認定書交付式



第百七号
認定書

邦楽器系製作

橋本 圭祐殿

昭和二十二年六月十三日生

文化財保護法第百四十七条の
規定により右の選定保存技術の
保持者として認定します

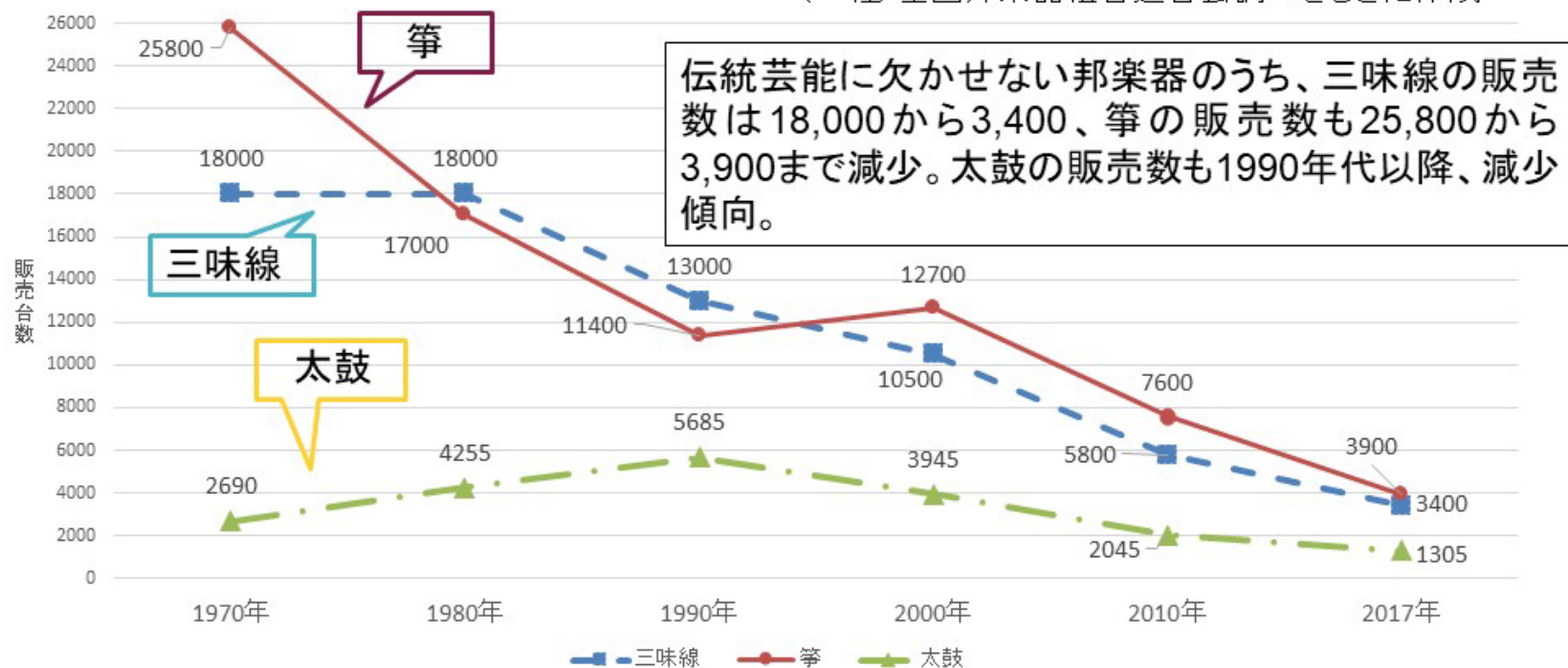
平成三十年九月二十五日

文部科学大臣 林 芳正



邦楽器販売数の推移

(一社) 全国邦楽器組合連合会調べをもとに作成



	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2017年
三味線	18,000	18,000	13,000	10,500	5,800	3,400
箏	25,800	17,000	11,400	12,700	7,600	3,900
太鼓	2,690	4,255	5,685	3,945	2,045	1,305

取り巻く環境による危機感

◆演奏人口の減少により既存の商品が頭打ちに

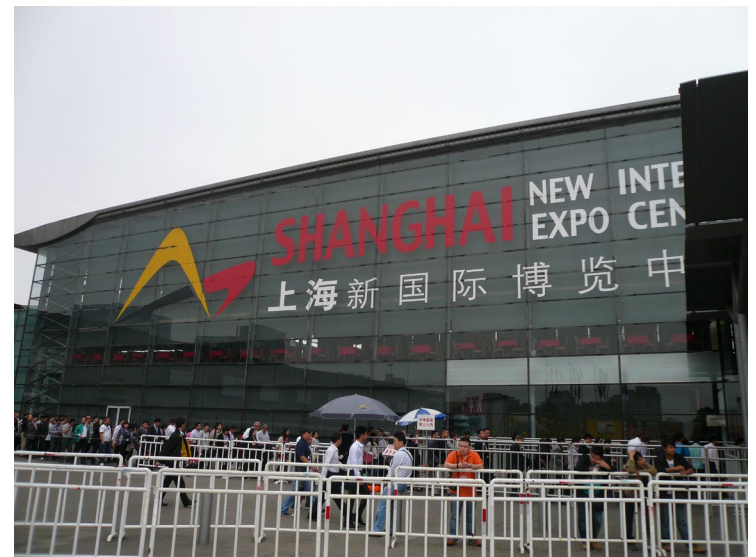
今の収益柱を補完する新しい柱を作ることで既存の経営や技術を残せるのではないかと考えた

◆自社の長所（強み・・・商品、技術、サービス、立地、社長の個性、ストーリー性）を伸ばすことに注力した（SWOT分析）

◆当社の強みとは・・・

①絹 ②撚る ③音を出すことが出来る

絹を原料に音色を奏でる高品質な絃を作る

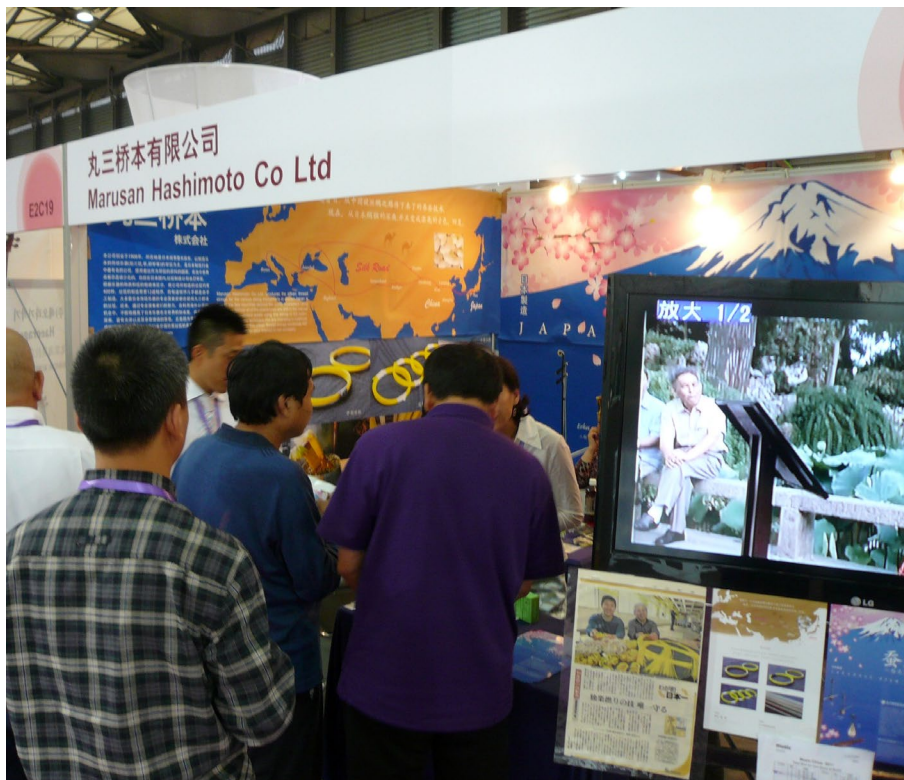


～ 中国へ ～

2011年10月 上海ミュージック
チャイナ展示会会場の様子

2000余りあるブースの中で
絹絃メーカーは当社のみ。
まさにニッチ市場の中で
存在感を出すことに成功する

中国では金属弦が主流。
当時絹絃メーカーは一旦途絶えていて
良質な絹絃を求める動きも
出てきているというタイミングでの
出展となった



古琴絹絃



古琴とは
孔子も嗜んだといわれるほど
古い歴史を持つ楽器

弊社は2012年「纏絃」という古琴絹絃独自の特殊な製法を習得し、中国伝統楽器市場に本格的に参入。

現在に至るまで絹絃のトップブランドとして中国の多くの演奏家に使われ続けている。

2017年から中国の金属弦メーカー最大手と契約し、
安定した販売活動を展開している。



2016年10月26～29日の上海で行われた国際楽器展示会では絹絃の講演会が開催され
共同主催者として登壇し絹絃の製法など説明した。



2019年10月上海にて絹絃製作に関する オンラインセミナーを開催

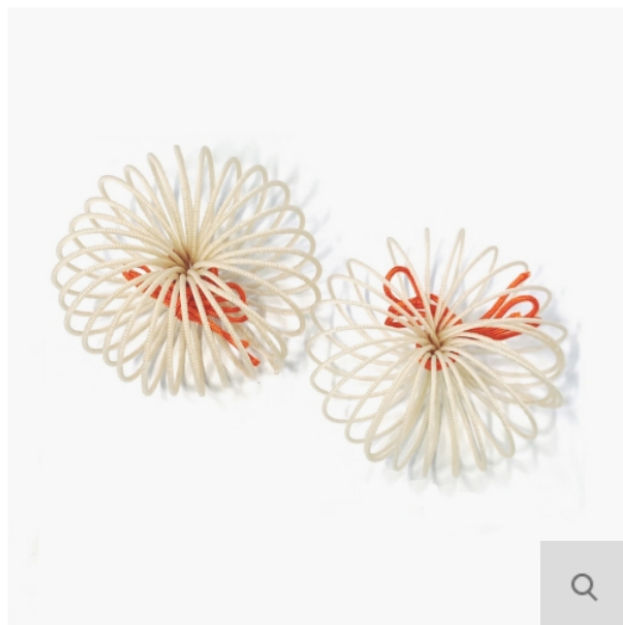
丝弦的制作历史、传承、创新为主题，为大家做了丰富的介绍。



本期雅风讲坛由高宇老师主持，来自日本的桥本英宗先生通过PPT向大家展示了丝弦制作的具体步骤与全过程。丸三家族从110年前就开始制作蚕丝乐器弦，历经四代，积累了丰富的经验。近年来，丸三丝弦开始尝试制作中国的古琴弦，在长期的探索与实践中共取得了一定成就。

オンラインセミナー開始後、
1万人を超える視聴があり、
絹絃製作への関心の高さを感じた。
数日で

HOME > 소품



고급 해금줄(일본산)

정가	450,000원
판매가	120,000원
구매제한	최소 1개
배송비	0원 / 주문시결제(선결제) 조건별배송 ▾ 지역별추가배송비 ▾
택배	
상품코드	1000000835
모델명	HM1780071
원산지	
상품재고	

공유 ▾



즐거찾기

오늘본상품



장바구니

TOP

2024年 韓国伝統楽器市場へ本格参入

伽耶琴やヘグムの絹絃の開発に
成功。韓国の提携先にて販売中



명주실

현재 가야금, 해금의 명주실은 거의 100% 중국산 명주실이 수입되어 만들어집니다.
가야금용 국산 오동나무와 해금용 대나무 뿌리가 고갈되어 가뜰이 국내에서 명주 생산이 안되니 다른 방법도 없습니다.
경북 상주시에 소재하고 있는 잠사 곤충 사업장에서 아주 소량으로 국산 명주실이 생산되기도 하지만, 워낙 극소량이라 연구용으로만 사용되고 있으며 악기용으로는 엄두도 못 내고 있습니다.

①海外進出による社会理解について

- ◆ 絹絃文化を持つ主要三国（日本、中国、韓国）の絹絃を製造することで世界唯一の技術保持となり世界的絹絃メーカーとして位置づけられ認知度を高めた。海外で高く評価されたことはおのずと日本国内でも関心が高まった
- ◆ セミナーなどを海外の現地で開催し、商品を売ることだけを意識するのではなく絹絃製作工程などを深く知ってもらうことで、絹絃文化を広め、文化的価値を高めることに繋げた。

②新商品開発による社会理解

高強度繭糸「響明」を使用した耐久性の高い三味線糸を開発

2024年 国の農業を支える農研機構と共同研究し、従来品より30%強度の高い繭糸を使用した楽器糸の開発に成功。

実用に関しても従来品よりも切れにくく音も良いと高い評価を頂いている。



新商品が出にくい環境の中、業界でも明るい話題として好意的な関心を集めることが出来た。

News

切れにくい三味線絹糸
「響明」完成！
丸三ハシモト、伝統と革新の融合に成功

音色の分析結果からも、音に膨らみがある高域成分が含まれており、演奏会や大きなホールでの音量効果にも期待が持てるという。強度のアップはステージ上での温度変化にも有利だ。伝統と革新が融合した新時代の三味線糸、まずは三の糸（13、14、15）の発売だが、橋本英宗社長は「今後は箏糸などラインナップを拡大していきたい」という。（小川真実）

来年1月、丸三ハシモト（株）より三味線の糸としては30年振りの新作となる「**響明**」を発売する。丸三ハシモトは生糸の産地として知られる滋賀県の長浜市木之本町にて1908年に創業、116年の歴史を誇る。製造される糸は三味線だ

けではなく、箏、琵琶などを合わせた約400種を超え、その技術は今や世界からも注目される。

今回、開発した三味線絹糸は、国立研究開発法人「農業・食品産業技術総合研究機構」と共同で科学的な検証のもと開発された。絹糸はナイロン製の三味線糸と比べ、細で澄んだ音色が特徴とされるが、細い故の耐久性について昔から悩みの一つだった。同社は、あるカイコ品種に注目し、研究と検証を重ねた結果、既存商品「寿糸極上」に比べ、破断強度で約30%向上、プロの演奏家テストでバチ打ちによる毛羽立ちの低減と余韻（サワリ）の持続効果もよくして「響明」を完成させた。

「響明」は農業・食品産業技術総合研究機構が保存するカイコで作られたもので、その生糸の特徴から命名。音質や糸の強度の感じ方は、演奏環境や個人の感覚により異なる。また、天然素材のため原料の調達状況により発売時期が変更になる可能性もある。

耐久性 5
4
3
2
1
余韻
音量
音質
糸の伸び
糸の弾力
毛羽立ちにくさ

—新製品（響明を使用）
—既製品絹糸（寿糸極上）
—既製品化学繊維弦（テトロン）

機能試験による使用感や音色の評価結果

邦楽ジャーナルより抜粋

耐久性と美しい音色を兼ね備えた三味線用絹絃を開発 —伝統の技×カイコ新品種が生み出す音色—

丸三ハシモト株式会社と農研機構は、繭糸^{けんし}強度の高いカイコ品種「響明（きょうめい）」^{*2}を使用することにより、絹絃の課題であった耐久性の向上を実現し、かつ明るく澄んだ美しい音色を特徴とする三味線用絹絃の開発に成功しました。今回開発した三味線用絹絃は、新製品「寿糸極上響明（ことぶきいとごくじょうきょうめい）」として、来年の1月より、丸三ハシモト株式会社が販売を開始します。

新製品の三味線用絹絃「寿糸極上響明」

（図1）を来年の1月より丸三ハシモト株式会社が販売を開始します。丸三ハシモト株式会社における三味線糸としては30年ぶりの新作となります。今回、販売するのは3本ある三味線の絃の中で最も細く、切れやすい三の糸（規格：13-3、14-3 および 15-3）^{*3}で、今後、他の規格や琴絃など、ラインアップの拡大を予定しています。

絹絃は化学繊維弦と大きく異なり、音色が繊細で余韻が綺麗ですが、摩擦等により演奏中に切れる頻度が高いことが難点でした。そこで、今回の新製品では、農研機構が育成した高い繭糸強度と実用化に必要な生産性の両立が可能な新しいカイコ品種「響明」の繭糸を使用することで、絹絃の課題であった耐久性の向上を実現しました。

響明を使用した新製品は既製品（寿糸極上）と比べ、破断までの撥絃^{はつせん}回数が30%以上向上し（図2）、プロの演奏家による官能試験においても、耐久性が高いとの評価でした（図3）。加えて、新製品は毛羽立ちにくく、余韻と音量に優れるため（図3）、演奏会など、大きなホールでの



図1 響明の繭糸を使用した新製品「寿糸極上響明」

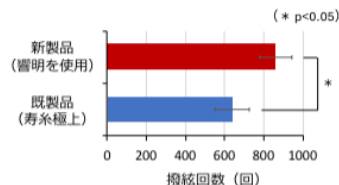


図2 試作した撥絃試験機による耐久性試験の結果

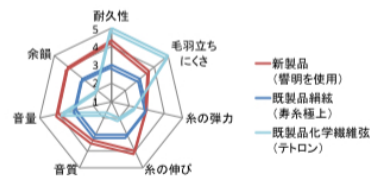


図3 官能試験による使用感や音色の評価結果



③SNSの活用による社会理解

会社や個人によるFacebookやX，Instagramにアカウントを持ち発信を重ね、社会への理解を増やしてきた。

特に絹絃を張り渡す作業場（糸張り場）の光景が綺麗だと評判となり、ここで写真を撮ることが音楽関係者の間で注目されている。言わば絹絃の聖地と化すことでその仕事に対し理解して頂くきっかけとなる。

次の写真をX（旧Twitter）に掲載した際には瞬く間に拡散される（いいね数1.2万超、146万回表示を獲得）



④講演活動による社会理解

- ◆ 大学 東京藝術大学、國立台北藝術大學、
大阪公立大学大学院、立命館大学、
滋賀県立大学、成安造形大学
- ◆ 学会 国際伝統音楽学会東アジア研究会、繊維機械学会、
日本繊維製品消費科学会、日本繊維技術士センター、
日本家政学会
- ◆ その他 東京文化財研究所、国立劇場 東京（友の会）、
100年経営研究機構、滋賀県文化財保護課、
滋賀県長浜市公開講座、長浜北高校、木之本中学校等
- ◆ 今後は絹絃のみ使用した楽器（箏、三味線、琵琶、胡弓、海外伝統楽器等）のコンサートを地元木之本のホールで企画したい

⑤古楽器の研究や模造品作成による社会理解

2019年（令和元年）

正倉院を代表する宝物「螺鈿紫檀五絃琵琶」の精巧な模造品が完成し、そこに使われる絹絃を丸三ハシモトが製作した。

弦は全て伝統製法「独楽撚り」で製作。その原料となる生糸には上皇后美智子さまが皇居内で飼育なされた日本古来種の蚕「小石丸」が下賜された。

正倉院事務所における令和の大きなプロジェクトとなり、絃制作についても多くの関心が寄せられた。



⑥邦楽器商業界における社会理解について

◆ 全国邦楽器組合連合会（全邦連）で副理事長として邦楽器全体の普及啓発活動を行う（2022～2026年まで）

- ・文化庁邦楽普及拡大推進事業 2021年度～
- ・大阪関西万博にて邦楽器普及イベントを開催 2025年9月
- ・あくるひコンクールの開催

（高校生大学生を対象としたオンラインでのコンクール）

- ・アメリカロサンゼルスにある日本文化の情報発信拠点であるJapanHouse LAにて海外の音楽関係者を対象とした邦楽器普及イベントを開催 2026年2月

(1) 2025年大阪関西万博にて 全邦連による邦楽器の対外発信を行う

5. 観光・食・文化・教育・スポーツ

日本の工芸品・和楽器の対外発信

連絡先 経済産業省製造産業局生活製品課

03-3501-0969

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/nichiyo-densan/index.html

①実施概要

万博を契機とした日本の工芸品・和楽器の対外発信を推進するため、伝統的工芸品をデジタル技術と連携して魅せる展示や、ライフスタイルの変化を踏まえた新たな工芸品と異分野連携、海外からの来訪者に向けた和装や和楽器によるイベント等を実施する。

伝統的工芸品の展示・製作実演・製作体験

<企画案>

- 会場での製作実演をライブ配信
- オンライン工房見学
- オンライン製作体験指導
- 事前に工房を動画で撮影し、VRで工房見学
- 伝統柄の投影、小舞台を活用したショーとのコラボレーション
- 新素材や最新の技術を活用して作成された工芸品の展示

(実施主体) 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、一般社団法人全国邦楽器組合連合会

(実施場所) 会場内（メッセ、日本伝統文化エリア等）

(実施期間) 一部期間

和楽器の演奏・製作実演・演奏体験

<企画案>

- 演奏家による和楽器演奏
- 和楽器ワークショップ（和楽器作り実演）
- 演奏家指導による演奏体験

②今後の実施方針

▼2023年度取組

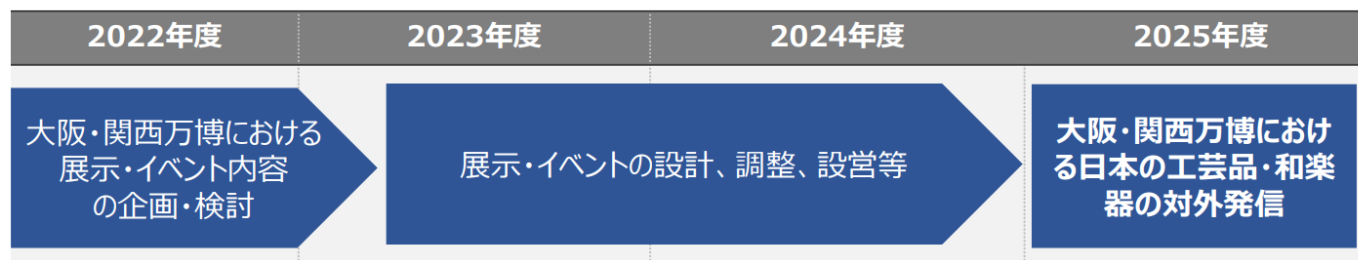
- ・展示・イベントの設計、調整、設営等

③予算

—



④工程表





2025年9月2日～4日の3日間でおおよそ
12000人以上の来客があった。

会場では邦楽器の製作実演、
邦楽器の演奏体験、
邦楽プロ集団による本格演奏
が行われた。



(2) 2026年2月1日
アメリカロサンゼルス
Japan House LAにて

世界に邦楽器を普及させるため、
グラミー賞の翌日に音楽関係者に向けた
和楽器PRイベント(**Sounds of Japan**)を
開催した。



最大の目的は 伝統技術を次世代へ繋げること

- ◆ 邦楽器系製作とは伝統技術ではあるが商業の世界でもあるため、これまでと同じ仕事をするだけでは次に繋げるのは大変厳しいのが現状である。
絃製作や演奏家のためのサービスからぶれることなく、
新商品や新市場開拓を進めることで未来への道は開けると考える。
- ◆ さらににはその文化的価値について自ら理解をし、その魅力を広く世間に対して「伝える力」が求められていると考える。